



上: JAXAの「非認知能力」を評価する評価法を流用し、精緻な「振り返り」を行うことにより、PA・DEの学びも深化することであろう
 中: 2019年7月に3日間にわたって、KSプロジェクトの「IT・プログラミングキャンプ」が開催され、多くの参加者が集まった
 下: 2019年の全日本高校模擬国連大会でも海城Aチームが優秀賞を受賞。今年5月にアメリカ・ニューヨークで開催される国際大会に出場することに

「JAXAとの共同研究」を通じて 振り返りによる 自己評価システムを導入

創造性や協働性を育成する体験プログラムや、教科の枠を超えて生徒の興味・関心を振り起こす「KSプロジェクト」など、独自の教育を展開している海城中学高等学校。さらに生徒の成長を促すために、新たな学校改革を推進している。その具体的な内容について、校長特別補佐の中田大成先生に伺った。

「KSプロジェクト」を活用し 自主的に学習する力を養成

— 現在、推進している学校改革の方向性について教えてください。

中田 本校では、1992年に教育改革をスタートさせ、「国家・社会に有

為な人材を育成する」という建学の精神のもと、グローバル化した知識集約型の社会で活躍する、「新しい人間力」と「新しい学力」をバランスよく備えた人材の育成に努めてきました。これは、OECD（経済協力開発機構）の教育プロジェクト「エデュケーション2030」で提唱する人物像にも合致しています。ところが現在、中学に入学してくるのは、残念ながら保護者の手厚いフォローに依存して受験に臨んできた「受動的な生徒」がほとんどです。そこで、そうした生徒たちを6年間で自立させ、主体的・能動的に行動できるような創造者に育て直さなければなりません。本校では、このような人材を育成するには、文科省が唱える「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の三要素、とりわけあとの二つを備えることが重要だと考えています。



校長特別補佐
中田 大成 先生

まず、「思考力・判断力・表現力」を養成するために、中学では探究型の「社会科学総合学習」を展開し、2017年からはこれに「KSプロジェクト」を加えることで、新しい学力の育成を強化しました。「KSプロジェクト」は教科の授業にとどまらず、生徒たちの「とがった」興味・関心のある分野

を深く掘り下げていく特別講座です。中1から高2までが学年の枠を超えて、共通のテーマに興味・関心のある生徒と教員が集まり、時間・場所・曜日など何の制約もなく、自由に設定することが出来ます。そして、自分の好きなことを深く掘り下げることで、生涯にわたって学習意欲を持続させることが可能になるのです。

— 具体的にはどのような活動を行っているのでしょうか。

中田 実験器具が十分に揃っていないモンゴルの子どもたちに、さまざまな実験の映像を届けるために、動画制作のプロに教わりながら自演の実験を撮影・編集する講座や、プログラミングに興味を持つ生徒たちが集まって行われるプログラミング講座、英語で本校を紹介する新聞「Kaijo Times」の制作など、ジャンルも多彩です。

三要素の三つ目である「主体性・多様性・協働性」を育成するために、グルー

プで課題を解決しながら人間関係を構築する体験学習「プロジェクトアドベントチャー（PA）」を中1・2で実施しています。中2・3を対象にした「ドラマエデュケーション（DE）」では、演劇的な手法を取り入れて、コミュニケーション力や創造力を育みます。たとえば、大人から聞いた実際にあった出来事をもとに、班ごとに全員で台本作成し、ドラマとして演じることで、他者との違いや協働する術を学びます。

JAXAのノウハウをもとに 新しい教育方法を開発

— 2019年度よりJAXA（宇宙航空研究開発機構）の教育共創事業の実証協力校になっていますが、現場での教育にどのように生かされていますか。

中田 ISS（国際宇宙ステーション）で働く現代の宇宙飛行士には、国籍も言語も専門分野も異なる者同士が、狭い空間の中で協働する力が要求されま

す。宇宙飛行士には主体性・多様性・協働性・学びに向かう力・人間性といった「非認知能力」が必要なのです。JAXAには、その非認知スキルを評価する方法や、そうしたスキルを強化する訓練法のノウハウが蓄積されています。それを学校教育に活用することが、この共創事業の目的なのです。

このうちの「Reflection（振り返り）」です。これまでこの「振り返り」の学びが十分にできていない部分があったので、JAXAの力を借りました。JAXAには非認知スキルを評価するための細かい指標があり、そこには「〇〇のような行動ができる・できない」など、評価されるべき具体的な項目が100近く並んでいます。これを参考にして、独自の自己評価システムを開発することで、中高生が自らの行いを客観的・多面的に見つめ直すことができるようになると思います。これまでのPAやDEでも「振り返り」は行っていました。その内容は十分ではあ

りませんでした。この部分が補完されれば、体験学習もアップデートできると確信しています。その成果は、この4月から始まる「キャリアパスポート」にも活用されます。

**世界に通じる教育を展開し
ハイバード大合格者を輩出**

— 教育のあらゆる場面でICT化を促進し、情報化社会に対応できる力の育成にも力を入れていますね。

中田 新時代を生き抜く力の基礎となる「知識・技能」の習得もおろそかにはできません。今後は「EdTech」を活用し、効率的に「知識・技能」の獲

得をさせていきたいと考えています。本校では2016年度からICT教育部を発足させ、全教室に高性能プロジェクターを設置し、校内全域でWiFiを完備するなど、段階的にインフラの整備も進めています。2020年の小・中学校で1人1台のデバイス、すなわちタブレットかパソコンを持たせるほか、全教室に高速大容量のネットワークを装備することを政府が決定しました。本校では、高1から高3まではすでにデバイスを導入しています。が、今後は今年度と来年度の2年間かけて、段階的に中学生全員に1人1台のデバイスを付与する予定です。

— 教育の成果は、生徒の進路にも反映されていますね。2018年の模擬国連国際大会で、最優秀大使に選ばれ、今年ハイバード大学へ進学予定の卒業生がいますね。

中田 彼は、本校が取り組むさまざまな学習プログラムを通して、基礎を築きながら、総合力を身につけ、最優秀大使に選ばれたまでに成長しました。その成果もあって、見事ハイバード大学に合格しました。彼は世界で活躍する人材として、ロールモデルの1人になりました。後輩たちにとっても大きな刺激になったようで、世界を視野に入れる生徒が増えていきます。

— 今後、彼の背中を追う生徒も現れそうですね。本日はありがとうございました。

